

■参考資料 4 水戸市・新市民会館 まちの活性化も整備目標とした市民会館整備

1. 整備事業概要

(東日本大震災で市庁舎ともども使用不能に)

- 1972 年に開館した旧市民会館は、1,004 席の大ホール、会議室などを有し、水戸市役所に隣接し、一体的なデザイン、市民に親しまれた施設であった。
- 市民会館、市庁舎ともに、耐震診断の結果、大規模な耐震化工事が必要と判断された。水戸市全体の都市機能配置の見直しを行うなかで、市役所は市民会館用地も含めて現地建替え、市民会館は移転、新たな立地で整備することとなり、2014 年に解体された。

(総合計画、まちづくりマスタープランで、戦略的な中心市街地の拠点と位置付ける)

- 水戸駅周辺ではなく、商業（京成百貨店）と芸術（水戸芸術館）のある中心市街地に立地を想定。

■総合計画における新市民会館の4つの役割

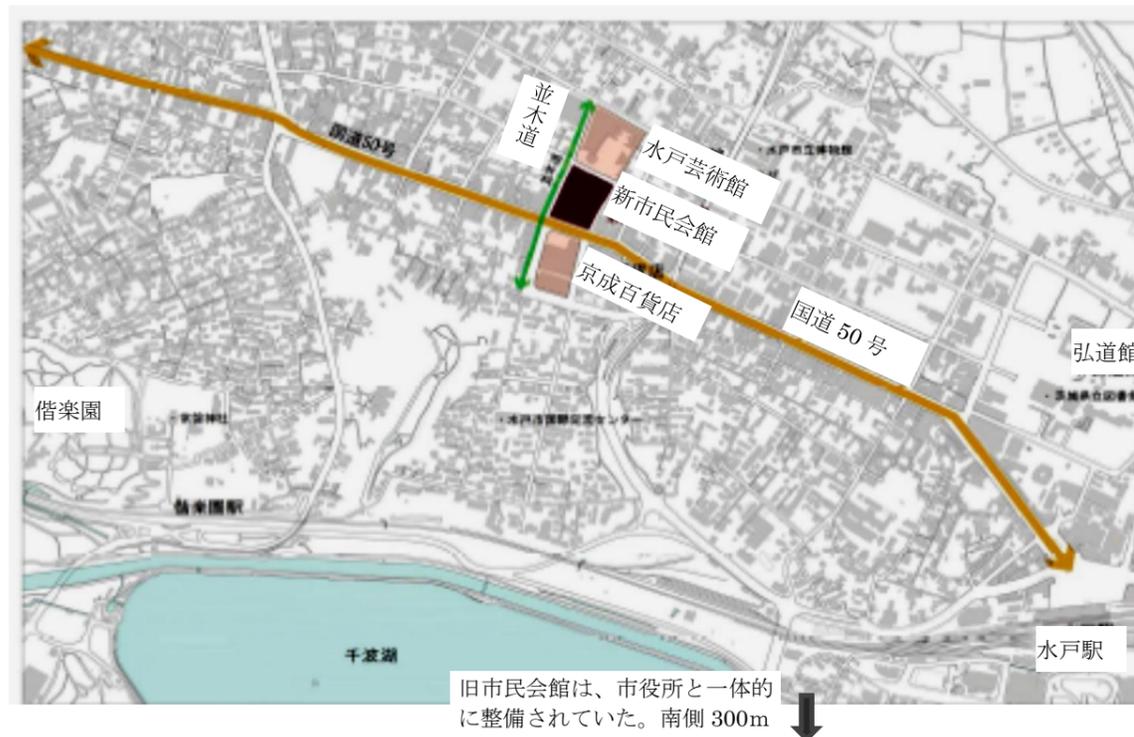
1. 市民の芸術文化向上の拠点として、芸術・文化の振興への寄与
2. コンベンションの拠点として多様な交流の創出への寄与
3. コンベンションの拠点として、戦略的観光の振興への寄与
4. 水戸芸術館や他の公共施設、民間施設との連携や活用促進への寄与

■まちづくりマスタープランにより、新たな中心市街地の「都市核」に位置づけられる

- 交流拠点づくり：泉町1丁目地区の再開発事業（新市民会館整備）

(再開発による敷地の確保 泉町1丁目北地区市街地再開発事業)

- 新たな立地場所は、水戸芸術館に隣接し、国道50号を挟んで京成百貨店との間が選択された。駅からは1km以上離れ徒歩では15分程度かかるが、路線バスアクセスも良く、中心市街地である。
- 何よりも水戸芸術館があり、海外ブランドも入店する百貨店があり、商業、業務、芸術文化など多様な機能が連携した一体的なまちづくりを目指すエリアである。



(再開発促進のために市が積極的に動く)

- 再開発事業地には地域で長年親しまれてきた民間病院があった。この病院を中心市街地に留めることもコンパクトシティにおける市民サービスとして必要との市の判断から、近接する街区（水戸芸術館の北側街区）に市が土地を取得し、それを病院側に売却するなどして代替地を確保し、再開発の条件を整え、事業化が決定した。



(伊東豊雄氏がプロポーザルで選定、建築としても大きな期待が寄せられる)

- 2016 年に実施されたプロポーザルで、伊東豊雄氏のチームが最優秀となった。隣の水戸芸術館が磯崎新氏の作品であり、その隣に伊東豊雄の作品ができることからその点でも名所となると期待されている。

(2021 年開館を目指す 今年度実施設計中)

- 市民会館が使えない期間、地元予備校の講堂が使えるように協定を結ぶなどしながら、2021 年開館を目前に、現在実施設計段階に入っている。建設費の高騰が懸念されており、㎡単価 90～95 万円程度を想定している。

施設の概要

部門	各部門の利用イメージ
①大ホール部門 (約 2,000 席)	○芸術文化の発表（吹奏楽や合唱コンクール） ○鑑賞機会の提供（オーケストラ、室内楽・器楽、吹奏楽、合唱、ロック・ポップス、歌謡曲、演歌、ジャズ、演劇、ミュージカル、邦楽、ダンス・バレエ、民族舞踊、演芸等） ○コンベンション、大規模イベントの開催（フェスティバル等） ○講演会、学会、式典等の主たる会場
②多機能ホール部門 (約 490 席)	○芸術文化の発表（ピアノ発表会、創作活動発表会等） ○市民主体の芸術文化活動、(映画の上映、演劇等) ○鑑賞機会の提供（大ホール同様、多様なジャンル） ○研修会、総会、講座等
③展示ホール部門 (約 480 ㎡)	○芸術文化の発表・美術展示、(絵画、彫刻、書道、写真等) ○物産イベント、商談会の会場
④会議室部門 (15 ～ 20 室程度)	○会議室 ○イベント、大会等の分科会の主たる会場
⑤創造支援部門 (10 ～ 15 室程度)	○市民主体の芸術文化の活動（音楽や演劇等の練習、お茶会等）
⑥交流部門	○市民が日常的に集える交流拠点 ○情報発信拠点
⑦管理運営部門	○芸術文化活動を支える管理、運営の場

※延床面積 22,000 ㎡程度、建築面積 7,200 ㎡程度

※画像、写真は施設 HP 及び市役所 HP から採録

2. 基本設計概要

(立地を活かし、新しい広場をつくる)

- 京成百貨店のエントランス、新市民会館のエントランス広場、やぐら広場、水戸芸術館の芝生広場を一直線に配置することで、相互に連続した新たな賑わいを創り出す。南の賑わいと北の賑わい、それぞれを活性化する。
- 大ホール、フライタワー（舞台上部吊り物等を収めている、35m程度の高さになる）を中心に置くことで、四方周りに対する高さを抑さえた圧迫感の無い建物とする。
- 建物西側の並木道や、屋上の芝生広場など、緑豊かな外部環境を形成する。



(並木道側外観)
(左端はオープンカフェ)

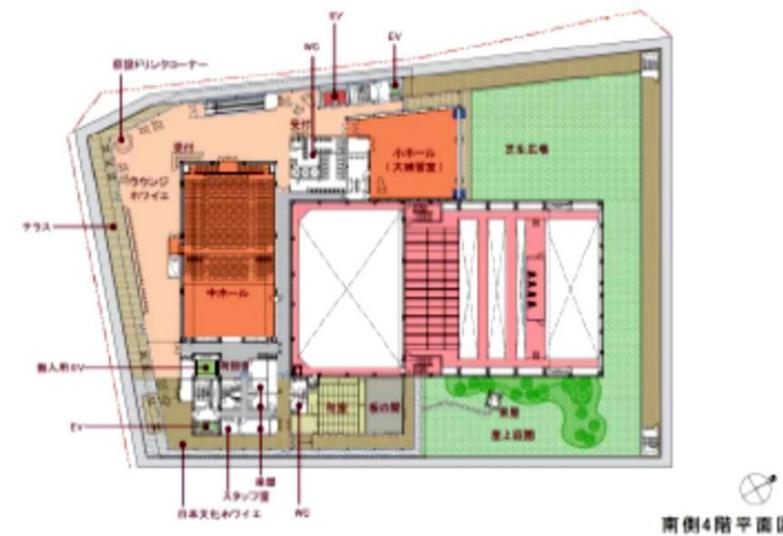
(毎日が祭りのような屋内広場)

- 木製の柱・梁を組み上げて作られる「やぐら広場」は、誰でもが気軽に立ち寄れる、交流の場となる。並木道とオープンカフェでつながる。



(屋上を緑の広場に)

- 水戸芸術館側、4階屋上に、屋上芝生広場、屋上庭園を設け、屋外イベントなどにも対応する。屋上庭園には水戸芸術館タワーを眺めることのできる東屋を設ける。



南側4階平面図



※画像、写真は施設 HP 及び市役所 HP から採録、原典は伊東豊路建築設計事務所・横須賀光夫建築設計事務所共同事業体